

令和5年度第4回
新宿区外部評価委員会第2部会 会議概要

＜開催日＞

令和5年8月18日（月）

＜場所＞

本庁舎6階 第3委員会室

＜出席者＞

外部評価委員（5名）

山本卓、的場美規子、松井千輝、前田香織、鱒沢信子

区職員（1名）

甲斐主任

＜開会＞

【部会長】

改めまして、おはようございます。今日はお時間いただきまして、ありがとうございます。
ただいまから第4回の外部評価委員会第2部会を開催いたします。

本日は、部会としての評価の取りまとめを行います。うまくいけば、次回は全体会に審議していただくという内容になろうかと思えます。

では、最初に、議事に入ります前に、本日の配付資料の確認をお願いいたします。

【事務局】

では、机上の資料をご覧ください。

1番上は本日の次第で、評価の取りまとめについてです。その下に、外部評価チェックシートをお配りしています。最後に、経常事業取組状況シートを一部プリントアウトしたものをお配りしています。

【部会長】

委員の皆様には先ほど紹介ありました外部評価チェックシートが配られているかと思えます。本日はこれに即して、部会としての取りまとめを行っていきたいというふうに考えています。

最初に計画事業、次に経常事業、そして最後に全体を踏まえた形で、個別施策についての評価の取りまとめを行いたいというふうに考えております。

最初に、計画事業の1について取り上げていきますが、まずお出しいただいたものに即してということ構いません。評価、それから今後の取組の方向性に対する意見、その他意見として出していただいたもの、網羅的でなくても場合によっては構いませんが、場合によっ

ては読み上げる形で補足を加えるという形で各委員からご発言いただいて、その上で、全体としての部会としての取りまとめというのを行ってまいりたいというふうに考えます。

最初に、計画事業1の気軽に健康づくりに取り組める環境整備、こちらを評価取りまとめ、行いたいと思います。

簡単に、こちら健康ポイント事業とウォーキングの推進、これを2つの大きな柱とする事業でありました。

皆様、評価については「計画どおり」ということですので、おおむねこのところは「計画どおり」ということになるのかなというふうに考えております。

そうしましたら、こちらに即す形でお考えになったようなことを、ポイントを上げる形、あるいは読み上げる形でも構いませんので、評価について、それから次のページの今後の取組の方向性に対する意見、それからその他意見でお書きになったところについて、どんなことを評価、意見として持たれたか、聞かせてください。お願いいたします。

【委員】

まず、評価なんですけれども、健康ポイント事業は、目標値を上回る結果を出していて、しかも区民の健康づくりのきっかけとなったということがあります。それで、最終的には「計画どおり」と評価したんですけれども、評価を、さらにいいなと思ったのが、アプリ内のバージョンアップや広告、より効果的な結果につながるための取組です。

そして、ウォーキング推進のためのこの作成していることも評価できます。

一方、ちょっとこれはどうかと思った点が、まず健康ポイント事業ですけれども、多くの区民というところをうたっている割には、周知とか取組がもしかしたら足りないのかな、不足しているのかなということが感じられました。

ウォーキング推進のほうの問題点といいますか、どうかしらと思った点は、より多くの区民が習慣的に歩くことということを目指していますけれども、それが本当につながっているのかなというところは疑わしいなということを感じました。ただ、総合的に判断しまして、結果も出ていますし、数式的にも問題がなかったので、「計画どおり」と評価いたしました。

続きまして、今後の取組に関しましてですけれども、重なりますが、課題としては、より多くの区民、幅広い世代ということをうたっているので、こちらを今後どのようにしていくかということが課題と思われまます。

そして、希望していることなんですけれども、アンケート結果や、6月にいろんなことをしてくださったので、せっかくしたくださったことに対してきちんと分析をして、次につなげていただきたいということです。

この事業に関しましては、軌道に大分乗っているように感じられましたので、この後いろいろ試行錯誤しながら、より幅広い世代、幅広い年代、多くの区民に参加していただくようになってほしいということをご期待しています。

最後、その他の意見ですけれども、では、一体何ができるのかなと個人的に考えたことを

記載しました。

2つですが、1つは、多くの区民、幅広い世代ということで、長期の休みとか連休や祝日を使うことも効果的かなと考えました。なので、ファミリーウォークとか3世代ウォークを試してみてもいいのではないのかなというのが1点目。

そして、もう1点目は、新宿観光振興協会がナゾトキウォークなどをやっていて、それを若い方たちが楽しんでいるので、そちらと共同で行うことで、より幅広い世代に広がっていくのではないかと考えました。

【部会長】

ありがとうございます。

では、同様にお願いします。

【委員】

評価の点としては、皆様とご一緒のとおり、本事業が目標値を上回った点というのがまず評価できることと。あと、健康ポイント事業では、アプリや活動量計を用いたことによって幅広い世代へ対応しているという点も、社会参加のきっかけづくりに貢献したという点では素晴らしいかなと思っておりますし、あと、ウォーキングの推進に関しましては、高齢者中心であったものの、定員を超える申込みがあったということは、やはり区民の健康への関心の高さというのがうかがえるので、その点は、コロナ禍とはいえ、運動不足解消には効果的であったのかなと思っております。

私が今後の取組の方向性で上げた点としまして、働き世代が生活習慣病にかからないために、より多く周知してほしいことを望んでいることと、SNS広告による周知の効果を分析してほしいという点に関しましては、その他の意見として、他の委員も上げていらっしゃる点かなと思っておりますし、それから健康づくりウォーキングマップ、これは利用した高齢者の意見を参考にして、携帯できる利便性だけではなく、文字の大きさにも配慮してほしいという、この点に関しましては、他の委員も触れていらっしゃる点かなと思っております。

【部会長】

ありがとうございます。

そうですね。かなり共通の意見お持ちになっているところ、幾つかあったというふうに拝見しました。ありがとうございます。

続きまして、お願いいたします。

【委員】

まずは、評価の部分なんですけれども、やはりウォーキングという効果の、手軽に効果が期待できるよう内容、非常にいいと思いました。

あと、ちょっと視点が少し皆様と異なる部分もあるかと思うんですけれども、目標値を大きく上回る数値を見ても、やはり評価できるということで記述しています。また、そのときにグーグル広告やインスタの広告に出稿したということなんですけど、見たことがないということもありまして、どういったものを広告されているのかとか、どういったものを反映

して周知しているかということに、マーケティングの部分に非常に私は気になっていましたので、そういったものも、どういった意見を踏まえて出しているのかということが、出していることを評価しているんですけども、どういった内容なのかということ、そんな意見、感想のところと絡めてですけども、書かせていただいています。

あとは、今後の取組の方向性に対する意見としましては、やはり意見がありましたように、皆様も、実際に利用している方は使いづらいという意見を、どのように捉えて使い続けるのかということですね、もう少し考えていただければと思います。

予算の関係もあると思うんですけども、情報量が少なくても、ここだけ知りたいとか、部分的なものでもいいので、文字の大きいもの、使いやすいものをつくっていただけると、よりウオーキングに対して前向きになるのではないのかなという思いで書かせていただいています。

あと、その他意見としましては、やはり民間のコンサルタントや企業が入っているのこういったものだと思っていますので、可能であれば、どのくらいの予算が使われていて、時々、行政がやっている広告に対して、なぜそれがいいと思ったのかということで、SNS上では逆に注目されることもありますので、そういった部分を踏まえて、どういう部分で気をつけて周知しているかということをお伺いしたいと思います。

【部会長】

ありがとうございます。

今後の取組や方向性でおっしゃっていた点は、ウオーキングマップについての点ということで理解しましたけれども、そのとおりですね。

【委員】

そうですね、はい。

【部会長】

そうでしたら、お願いいたします。

【委員】

「計画どおり」というふうに評価させていただきました。

皆様おっしゃっていただいたように、運動不足解消のきっかけとなる取組でもあるし、また、指標に対して目標値を大きく上回る結果を出したということは、やはり「計画どおり」と評価したほうがいいのかというふうに思っているところです。

それで、私が今回のこの事業に対して思ったことは、社会参加もきっかけに大いに貢献していただきたいし、そのきっかけになっているのかなということもありますけれども、さらに広げていきたいというような思いを込めて書かせていただきました。

それで、評価の部分は書いてあるとおりで、ちょっと枝葉の、評価内容の書き方に枝葉の部分が実に多かったかなというふうに思っております。特に、「いつでも」「どこでも」「ひとりでも」ってわざわざ書かなくたっていいのになんて、書いちゃってから思ったりしたんですけども、そんなところで、皆様のご意見を伺って、最後の発言ですので、おっしゃる

とおり、大体同じことを考えていたなということで、自分でも納得しております。

それで、今後の取組の方向性ですけれども、ここでも社会参加・仲間づくりのきっかけづくりとなる事業であってほしいということで、ヒアリングのときも質問させていただきましたけれども、ウォーキングマスターの存在というのがどういうふうに生かされるのかなということを問いかけてさせていただいたのと同時に、ウォーキングマスターを活用してほしいということを今後の取組の方向性には書かせていただきました。

その他の意見のところを書いたところは、先ほど来出ているウォーキングマップのことに対する要望と、それから部会長が今後の取組の方向性に対する意見で、歩道やトイレなどの物理的な環境面のことも具体的に書かれていましたけれども、なるほどなというふうに思いつつ、私はまちがきれいじゃなきゃ歩く気にもならないでしょうということで、まち美化とか歴史とか文化とかも含めて、他部署との連携を通して、歩けるまちづくりを目指した上で、歩くことを推奨しましょうということをご提案させていただいたつもりです。

それと、先ほど委員のお話にありましたとおり、評価のところ、別の取組や周知方法があるのではないかなというように書かれていて、ここに何か具体的な、別の取組って何だろうという、具体的なことを書いてほしかったななんて、最初読んだときに思ったんですね。そしたら、その他の意見のところ、ファミリーウォークとか3世代ウォークというような具体的な内容が出てきているので、これは、ぜひ生かしてもらいたいなというふうに感じました。

【部会長】

ありがとうございます。

大分整理もしていただいたというふうに伺いました。本当に広い視点で、まちづくりや社会参加・仲間づくりという、広がりをしっかりこの事業に持たせていくという方向性お示しいただいたので、これはぜひ部会としての意見として、今後の取組の方向性のところで盛り込む方向にするのが適切かなというふうに私としては考えております。

それから、最後におっしゃっていた委員の具体的な提案の位置づけですよ。こちらについても、より広い層の参加を今後さらに図っていくというときの、この部会の中で出た具体案として、こういったものを盛り込むというのは私も賛成でありますので、その点についても、この事業については1つポイントになろうかというふうに思います。

私としては、まさに、もう本当に私は評価等に書いたのは、皆さんおっしゃったものを何か一般化して言っているだけですので、特に私のほうから新たなポイントというのはないかなというふうに思います。

さっき、それも委員も言っていただきましたけれども、今後の取組の方向性としてのまちづくりのソフトの面に、委員は、よりもう少し力点を変えていますけれども、私はもうちょっとハードですね。やっぱり、何か狭い道のところ、ここをウォーキングするのかみたいなことになっているとちょっとまずいとか、あと、話の中にありましたけれども、トイレのところについては微妙な問題なので、気にされているような発言もありましたので、そのほ

うのチェックも引き続きしていただきたいというようなことを私としては書いているところ、そこは皆さんのところプラスというところになるのかなというふうに伺いました。

そうしましたら、こちらの事業ですね、計画事業1、まずは評価のところについては「計画どおり」ということにしてもよろしいでしょうか。

【委員】

はい。

【部会長】

では、そこについてはそれで、皆で同意したということで。

この内容としましては、拝見したところ、まず全体を見渡すような書き方になっているのが、委員の説明が網羅的に、今上げていただいた意見を書かれている文章かと思しますので、これを主体として、そこに皆様上げていただいた点、課題とか評価できる具体的なポイントとかいうものをここに具体的に加えていくという形で、肉づけするという形で文章化すれば、こちらについては外部評価としての評価案の内容になろうかというふうに考えました。

その際には、委員が具体的に挙げられているような、指標をしっかりと満たしているというところも上げるという形で記載をするということにしたいというふうに思います。

この点、まずは何ですか、具体的な周知方法というよりは、ここ評価のところですので、令和4年度の資料についての評価ということで、委員が書かれた文章に、皆さんお書きになった、対応するところを具体的に入れ込んでいくという形でまとめたいというふうに思いますけれども、その点についてご同意いただけますでしょうか。

ありがとうございます

【委員】

よろしいですか。

【部会長】

どうぞ。

【委員】

委員の文章の中に、今後の取組の方向性に対する意見ですけれども、働き世代への働きかけという言葉が出ていましたけれども、働き世代を含む、より広い年代への働きかけということ、ちょっと具体的にどこかに、総合評価じゃなくても、今後の取組の方向性のところでもよろしいので、ぜひ入れていただけたらというふうに思うんですけれども、いかがでしょうか。

【部会長】

今の点、皆様、私としては異論ありませんけれども、皆様、いかがでしょうか。

そうしましたら、幅広いというところは、特に働き世代を中心というふうな形で、その言葉、文言を盛り込むような形で、これは今後の取組の方向性のところにその点記載するという形にしたいというふうに考えます。

それから、周知の方法ですよね。集めたアンケートの結果等に対する分析結果を活用とい

うことをおっしゃっているので、そういうところ、検証した上で、さらに工夫を重ねていただきたいということだと思いますので、その旨もやはり、既にあるアンケート結果をしっかりと検証して、さらに効果的なものにするために、より有効な活用方法を引き続きしっかりと検討してもらいたいということを、今後の取組の方向性には盛り込んではいかがかと思いますが、この点もご同意いただけますでしょうか。

【委員】

はい、お願いします。

【部会長】

それから、先ほどの意見に関連して、あまりウォーキングのためのウォーキング事業というふうには、狭いところへ閉じないで、それをきっかけにいろんな社会参加・仲間づくりと輪が広がっていくというイメージだと思うので、ここはちょっと重要なところだと思います。多分、事業なさっている人は、やっぱり事業完結に考えると思うんですけども、その事業をきっかけにして広げていくというところはやはり重要な点だと考えます。

なので、委員のおっしゃる社会参加・仲間づくりの部分ですね、ウォーキングの輪を広げてというところですけども、ここも今後の取組の方向性、場合によっては一番上、一番大きいところですので、一番最初のほうにこちら記載することにはいかがかというふうに考えますが、この点についてもご同意いただけますでしょうか。

【委員】

はい。

【部会長】

ありがとうございます。

そうしましたら、この事業については、最後はその他意見に書かれているポイント、委員の具体案はぜひ盛り込みたいというふうに考えておりますので、その扱いについてどうするか。

それから、ウォーキングマップについての工夫、もうちょっとしてもらいたいという点については、それから委員がおっしゃっている、まちづくりの視点も当然持って進めていただきたいという点、こちらをどこに盛り込むかということですが、今後の取組の方向性に入れていくのか、それともその他意見のところに記載するのか、このあたり、アイデアとかを伺えればと思いますが、いかがでしょうか。

【部会長】

ウォーキングマップの話は具体的な話で、ウォーキングイベントは引き続き、再開して推進していくということですので、これは今後の取組の方向性のところに入れるのが適切かなというふうに考えますが、よろしいでしょうか。

【委員】

はい。

【部会長】

ありがとうございます。

基本的な考え方で社会参加・仲間づくりというところ、それからまちづくりという視点も持ってもらいたいというのは、その他の意見というよりは、今後の取組を考えるときにそういう視点に立ってやってもらいたいということだと思うので、これは今後の取組の方向性の頭ですかね。そこに持っていく、その上で具体的な、先ほどのマップの工夫とかいうのを記載するというような文章にしていくというのが1つ考えられますが、いかがでしょうか。

では、それについては、そのようにしたいというふうに思います。

あとは、他事業との連携に関する具体案ですね。これをどこに入れ込むのが一番適切かということになるんですけども、お知恵をいただければと思います。

【委員】

いい意見なんですけれども、その方向性と区の方向性が必ずしも合っているかどうかよく分からないので、感想的な感じで上げておくのがいいのかなと思います。

【部会長】

そうですね。その他意見、感想のところというところで今ご提案でしたが、ほかの委員、いかがでしょうか、もしご意見ございましたら。

では、今の方向性でまとまったということにさせていただきます。

あとは、位置づけになりますが、部会としての案としていただくか、それとも委員の中にこういう具体案も出されていたという述べ方にするかというところで、ちょっとニュアンスが変わってくるかと思うんですが、私としては、部会として提案する案という形にもさせていただきますのであれば、したいように思うのですがよろしいでしょうか。

【委員】

賛成です。よろしくお願いします。

【部会長】

では、ここは部会としてこういう提案を具体案として投げさせていただくということで、その他のところに記載させていただくという形にしたいというふうに思います。ありがとうございました。

そうしましたら、こちらについてはおおむねもう方向性、文章のところも含めてまとめることができたかというふうに思います。

では、そのようにいたしますので、最終的な文章については、一旦預かって、下案つくったものを見ていただくという形にしたいと思います。ありがとうございます。

そうしましたら、次に、計画事業の2の①のところに進めてまいります。

こちらは、高齢期の健康づくりと介護予防・フレイル予防事業ということで、例の視察をした「しんじゅく100トレ」ですね、いきいき体操、ごっくん体操といった事業、それからその地域展開、そしてそれを支えるサポーターの育成支援、そして講演会や出前講座から成る事業になります。

では、こちらについて、お願いいたします。

【委員】

新型コロナウイルスの感染症の影響を、とても大きく受けたということで、指標1、指標2に沿って書かせていただいたところですが、指標1の高齢期の健康づくり・介護予防、出前講座を利用する住民主体の団体数が目標の半数以下だった、これ48%ですが、目標値が50で、その母数がどうですかということ、例えば何だろう、住民主体のグループというのは一体幾つあるんでしょうかということ、ヒアリングのときに聞かせていただいて、私もさがせる新宿という、地域でどんなグループがあるかということが具体的に出ているサイトがあるんですけども、そこで見てもかなり多いんですね。具体的にどのくらいあるんですかといったら、やっぱり高齢者クラブとか様々なサロンとか、そういったところを含めて300団体ぐらいあるわけですね。その中で50を目標にしているのにもかかわらず、さらに少なかったというのは、ちょっとやっぱり、これはマイナスポイントだったなというふうには思いました。とはいえ、延べ団体数とか延べ受講者数が前年度より増加しているということで、ちょっと許されてもいいかなというように思ったところです。

指標2の「しんじゅく100トレ」に取り組む住民主体の団体数が、健康づくり・介護予防推進コーディネーターの支援により、グループが多く誕生したということだと思いますが、コーディネーターの人数が少ないんじゃないかなとは思いますが、とにかくグループ、既存のグループに、「しんじゅく100トレ」に取り組むというところで、素晴らしい効果を上げているということが、視察を通して、また内部評価からも読み取れるというところで、「計画どおり」というふうに評価させていただきました。

その他の意見ですが、先ほど申し上げたように、例えば地域の住民主体の団体というのは、地域安心カフェとか高齢者いきいきサロン、高齢者クラブと300近くあるわけですが、団体活動に参加していない高齢者へどういうふうに働きかけるかというのが1つの課題であろうかなというふうに感じましたので、そういったところで、高齢者総合相談センター、社会福祉協議会との連携を持ちながら、一人でいたい、一人活動が好きという方に対する働きかけも、直接的に働きかけるという方法も選んで、広がりを持っていただきたいということで、その他の意見・感想のところに書かせていただいたところです。

【部会長】

ありがとうございます。

最後の点は先ほどの委員の意見と重なっているという点でした。積極的に考えるべきポイントかというふうに考えます。

そうしましたら、お願いいたします。

【委員】

そうですね。団体の活動場所に来られなかった方に対してどのような対策をしているのかというのを評価しづらい部分であると感じました。コミュニティが苦手な方もいらっしゃるので、そういった部分も配慮しての達成度も少しあるといいのかなと思います。

そこで、今後の方向性に対する意見なんですが、そのように自宅で、ラジオ体操みたいな

イメージなんですけれども、自分でこれだけやったよとか張り合いを持って取り組んでいる方を増やしていくような取組があってもいいのかなと思いました。

視察で見せていただいた動画なんですけれども、あれもY o u T u b eに上げたりとか、そういった形で、身近に 100 トレができるような環境というのを提供できるのも1ついいのかなというイメージです。なので、健康な方も含めて、それぞれの状況に合わせてこれだけやろうとか、家でこれだけやろうというような目標を示せるといいのかなと思います。

その他意見としましては、健康づくり・介護予防推進コーディネーターの方はとてもいいお仕事されていると思いました。すごく存在感があり、引きつける方だったんですけれども、皆さんの意見を拝見して、彼女の後継者の育成についても考えてほしいと思いました。

【部会長】

ありがとうございます。

自宅にいる方との連続性を持たせる、そちらでやりたいという方ももっぱら自宅で完結するという形だと、ちょっと事業の趣旨から離れるかと思うので、でも、自宅がやっぱり一番落ち着くという方もおられるとすると、それと集会所に行っているのと、人によってバランスがあると思うので、そういうのを配慮したような工夫というのにも必要になってくるといってお話であったかというふうに伺いました。

それから、これ、ほかの委員の皆さんも視察のときの感想、私も含めて、書いていただいているので、これはぜひどこかに入りたいなというふうに思うんですが、視察のときの感想も盛り込んでいければというふうに考えます。

そうしましたら、進めさせていただいて、続いてお願いいたします。

【委員】

評価に関しましては、普及啓発活動を強化している点がまず評価できることと、あと、参加者がおのおのその体操のサポーターという意識を持たせることで、社会参加につながって、心身の活力向上に効果があると思われる点は非常に評価できるなと思っておりまし、そして「しんじゅく 100 トレ」に取り組む団体数が増加して 69 になったということですし、それから見ている中でも、団体が自分たちに合った体操を無理なく継続できている点というのは、今後も続けられる点として大変意義があることかなと思っております。

そして、今後の取組の方向性に関しまして意見を上げたのが、ヒアリングでもお聞きしたときに、新宿いきいき体操サポーターが高齢化してきたという、そういう課題があったかと思えます。その課題を解消するためには、やはり今後、体操を発表できる場を増やして、若い方たちに周知して、参加してもらうということが一番の解決方法なのかなと思っております。

それから、先ほどもございましたように、コーディネーターがやはりすばらしい方だったんですけれども、その後継者というか、その数を増やしていくということが、やはり肝になってくるのかなと思っていきますので、その点もちょっと、いい点ではあるけれども、課題としても上げられるのかなと思っています。

それから、その他の感想としましては、やはり現地視察を行った点を上げさせていただきました。様々な世代に非常に効果があるということで実感を私はしましたので、ぜひこのトレーニングを若い世代も対象にして、多くの方に参加してもらえる取組にしていきたいなという意見でございます。

【部会長】

ありがとうございます。

感想のところ、これ、今度すごく大切だと思いますので、どこに入れ込むかについても、後でいろいろお考えを伺えればというふうに思います。

そうしましたら、続いてお願いいたします。

【委員】

評価は「計画どおり」で、その理由としては、全てが大変順調に行われているということです。

ここに書かせていただいたのは、主に交流館での視察なんですけれども、それを体験してみて、よかったなということを書かせてもらいました。

今後、事業を継続して拡大するために課題を2件上げました。1つは普及方法で、もう一つはコーディネーター、代役とか後継者は一体そろっているのかというところが、検討が必要だと感じたと記載いたしました。

そして、今後の取組の方向性に対する意見ですけれども、重なりますが、普及活動というのはとてもキーポイントになると考えています。

今後の方向性として考えられているのは、高齢期だけでなく、全世代の広がりということに記載されていたので、それは普及活動にとっても有効だと思っています。そのために、私は、先ほどの事業もそうなんですけど、3世代事業として展開していくことを視野に入れることもよいのではないかと考えます。

また、委員もおっしゃっていましたが、この事業継続のためには、外に出られない方たちを一体どのように参加してもらおうかという対策も必要で、出ていく人はいつだって、どこにだって出ていくわけで、そうじゃない人の取りこぼしをなくすということが事業にとっては大切なことですから、インドアの人を無理やりではないですけども、ちょっと行ってもいいかなって思ってもらえるぐらいの、そんな普及方法も、少しずつ検討していったほしいなということがあります。

【部会長】

ありがとうございます。

今、ご説明いただいたところで、感想のところとコーディネーターのところ、これは既にほかの委員の皆様も上げられていたところだったかと思います。

そうしましたら、まずは評価のところ、私が書いたもので、皆様に今説明いただいたところで、私の聞き漏らしだけかもしれませんが、ほかの事業にも全部通じてですが、この体操プログラムに参加されている人の声を踏まえて、事業のさらなる充実化を図ってほしい

というところぐらいですよ。これも当たり前のように、皆様、もう既に指摘されていたところですので、別に独自のポイントでも何でもありませんけれども、ここは今後のところにも向けて、よりよいものにしていくというところで、私、評価欄に書いたのでは、1つ、何か今まで出ていないようなところといったらそれぐらいになっていたかというふうに思いました。

その上で、これは、皆さんは「計画どおり」ということでそろっていますので、こちらについては「計画どおり」としてもよろしいでしょうか。

【委員】

はい。

【部会長】

では、その内容ですが、指標1については、目標の半数以下だったという点は、これは評価ですので、ちょっとここはしっかり達成できなかったねというところで、区民としては少し残念に思うというのは、やはり記すべきかなというふうに思いますので、こういったところは盛り込む形にしたいと思います。

ただ、その上で、最終的には「計画どおり」ということですので、ただ、それを上回る部分というのが多く見られたというところとか、ポジティブに評価できるというところというのを、残念であったところに続ける形で記載して、最終的には「計画どおり」と評価するというような内容で、評価欄についてはまとめてはどうかと思います。

その上で、視察の感想については、見て感じたことで重要なところだと思いますので、その他意見・感想に記載しましょう。コーディネーターの方がすごく活躍されていたと。ただ、今後、後継者の育成について提案したいと思います。

それに関連して、私のほうで感じた点として、その他意見のところに書いたところですが、参加していただいた方にスタンプカードを配って、参加するごとにスタンプを押して行って、スタンプがいっぱいになったら景品を進呈することになっているけれども、景品を新規で用意するための予算が確保できてないので、ほかの事業で余ったもの等を活用して景品を用意している状況だと。これは、この事業を実施する上ではちょっと支障になっているかもしれないので、その他意見で、その点も検討してもらいたいというのを部会案にはいかがでしょうか。

【委員】

それに関連して、重りのカバーはすぐぼろぼろになるから、予算をつけて購入してほしいというようなことも視察の時に伺っていたんですけども、そういったものもどこまで入れるかというところで、記載をしていなかったんですけども、そういう意見がありました。

【委員】

参加者が達成感を感じられる仕組みをつくるのが大事かなというふうにも思います。時々ね、私も高齢者の通い場にスタッフとして参画しているんですけども、時々、体力測定とかするんですよ。握力とか、それから2メートルを何歩で歩いたかとか、そうする

と、何か前よりかも、他人と比べるんじゃないくて、自分の中で前回からどう変わっているかということに注目するようにしているんですけども、結構みんな気合入るんですよ。だから、やっぱりやってみたらこんなに効果があったとか、私こんなに参加できたんだとかって、達成感を持つということとはとても大事な事じゃないかなと思います。

【部会長】

ここは今ご意見ありましたので、動機づけの点において工夫していくということになるかと思うので、その他意見のところを盛り込んで、検討してもらいたいという形でお示しするというようにしてはいかがかと思います。

この事業は、政策的には地域包括ケアシステムという、今、国が全自治体に対して整備を進めてくださいというので、まずは高齢者向けで、地域で生活していく上で必要なケアのシステムというのを各地域で整えてください取組に関連する事業ですよ。

運動して終わりというよりは、運動の場に出ることによって、人間関係ができて、社会参加につながっていくという形で、自然に地域生活をより豊かなものにしていくというのが趣旨ですので、私はその他の取組のところで意見があり、介護予防・フレイル予防という事業に自己完結的になるんじゃないくて、やっぱりそこを1つのきっかけにして、さらに横にも広がっていくというところは意識してもらいたいということで、ちょっと政策用語的なんですけども、地域包括ケアシステム云々というのはそれで記しているところです。

委員の通いの場での体験からくる意見と合わせて、今後の取組の方向性の前の辺りに持ってくるというような形で取り扱いさせていただければと思うのですが、ご同意いただけますでしょうか。

【委員】

はい。

【

【部会長】

ありがとうございます。

では、皆様のご同意いただきましたので、この点についてはそのようにさせていただきます。

感想については、適宜、皆様お書きになったところを合わせるような形で、その他のところで、コーディネーターの方の活躍ぶりをすごく敬意を表すということも含めて記すというような形にしたいというふうに思います。

その他のところ、委員の皆さんのご意見いただければと思いますが、先ほどの動機づけにおける工夫、スタンプカードとか体力測定とのつながりを持たせるところでもあり得るのではないかなというようなあたりは、どちらに入れるのがよろしいでしょうか。その他意見として出すのか、今後の取組の方向性に対する意見として出すか、これはどちらもあり得ると思うので、お考えがあれば伺えればと思いますが、いかがでしょうか。

【委員】

その他のほうでいいのかなと思います。

【部会長】

では、そちらについては、その他のところで記すということにさせていただきます。

ほかに、すみません、私の整理上で、入れ込むべきこの事業についてポイント、特に重要なポイントで、できるだけ拾うようにいたしますけれども、気づいた点があったら上げてください。

では、おおむねカバーできているかなというふうに思いますので、もしご異論ないようでしたら、この事業については以上で、方向性をひとまず確定して、それに基づいて下文章をつくるということにしていきたいというふうに思います。よろしいでしょうか。

【委員】

はい。

【部会長】

ありがとうございます。

そうしましたら、進めまして、次に、計画事業の2の②、今度は高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施事業というものでした。これの内容としては、モデル事業を実施したというところですね。そのための準備を関係機関で行ったというものがこの事業でありました。

そうしましたら、これについて、これはその他意見がないものだったんですけれども、偶然ですけれども。

そうしましたら、評価から考えたところ伺えればと思います。

【委員】

全般的にはもう特に問題はないと思っていて、準備も整えられている様子が見えませんでした。

それで、評価ができるなと思ったのは、都から委託を受けて、区が直営で事業を行っているということ、ヒアリングの際におっしゃっていた点です。やはり、さらに再委託をしないということで、非常に細やかなサポートができるのではないかなと考え、評価をいたしました。

一方、どうかと思った点が、この事業自体が、介護をしている人とか支援を実際に受ける人たちにどれくらい認知されているのかなというところがちょっと不透明だったので、そのあたりに疑問が残ったので、その点を記載いたしました。

続いて、取組の方向性なんですけれども、準備団体なので事例が少なく、この後どうなるのかというところはまだまだ伸び代もある反面、分からないというところですから、今後はどうなのかということ期待したいということに記載いたしました。

それに付随しまして、令和5年度実施予定のハイリスクアプローチとポピュレーションアプローチの件数が妥当なのかということも、検討をお願いしたいと考えています。

さらに、講座というのは定期的に受講しないと身につかなくて、1回やったら、はい終わりではなくて、長期的なサポート方法も検討をお願いしたいということに記載いたしました。

た。

【部会長】

ありがとうございます。

まずは前提の確認なんですけれども、前のところに少し戻ると、インドア派とかソロ派、あるいは自宅という方も、アプローチの対象にもちょっとなるんじゃないかというお話ですけれども、多分、政策的には主たる対象者が75歳以上の後期高齢者ですね。この方は、やっぱり統計的に、心身の力が衰えていくという傾向が高いと。したがって、自宅から出ない、出れないということになる可能性が高まってくるので、そういう方に対しては、2の②の事業で、専門家が出向いて行ってやるというようなほうに力点を置く事業配分になっていて、もう一方のほうは、恐らく60から74歳がターゲットで、この方々はまだ心身の自立度は高いので、自宅の外に自分で出るということではできる方は多いということが多分前提になっているので、取りあえず出てきて、もっと積極的に出ていただくというような形になって、こちらが75歳以上で、もう本当に自宅から、もう本当にしんどいから出るのは大変だというような方を多分対象としているという事業組みになっているので、2が①と②に恐らく分かれているんだというふうに思うんですね。

そういうことを踏まえると、こちらについては、今出された意見等もですね。今後の方向性というところで、何でしょうね、今言ったような後期高齢者を念頭に置いて、その上で、より有効な事業にしていくためにはどうすればいいのかという問題提起の仕方になっていく事業かなというふうに考えています。

では、続きまして、お願いいたします。

【委員】

評価に関しましては、委員もおっしゃってましたとおり、都からの委託事業ということで、区としては細やかな相談支援をするよう心がけていらっしゃる点、こちらの点で評価できるのと、それから、医療専門職チームを設置したということが、期待できる点ということで評価できます。

今後の取組に関しましても、医療専門職チーム、こちらが地域での予防確保の状態に応じた相談支援を行うということを期待している点と。また、実際にハイリスクアプローチ、ピュレーションアプローチ、こちらを利用した方の意見をぜひ反映した事業であってほしいなということを期待しているという点でございます。

【部会長】

ありがとうございます。

今、ポイントを明確に指摘していただきましたので、これを踏まえて、部会案を考えていきたいと思います。

では、続きまして、お願いいたします。

【委員】

2人と同様なんですけれども、都の事業ということで、23区内では民間事業に委託するケースもあるということですが、新宿区は、いい表現の仕方ですが、安易に委託するのではなくて、まずは区で対応する、直で受けるということの評価させていただきました。

一度、区できちんとやることによって、今後、民間事業に委託することになったとしても、やはりきちんと内部のことが分かると思いますので、運営のほうですね、実績を得ていただければと思って、「計画どおり」と評価させていただきました。

今後に対する意見なんですけど、ちょっと簡潔ですが、やはりこのような事業がどのように、今後、多分すごく重要というか、忙しくなる部署になるのではないのかなと思っていますので、このような事業、フレイル予防になることを期待しております。

以上です。

【部会長】

ありがとうございます。

そうしましたら、お願いいたします。

【委員】

本格的な実施は今年度からということで、令和4年度はその準備がきちっとできたかどうかということの評価すべきであるということで、ハイリスクアプローチとポピュレーションアプローチをそれぞれの事例を通して検討し、さらに研修等も通して準備が整ったということで、「計画どおり」というふうに評価させていただきました。

総合評価のところは全て書かせていただいたんですけども、今後、やはり肝はハイリスクアプローチがどうできるかということであるというふうに思いましたので、その対象者の早期把握に努め、必要な支援が確実に提供できる、実施できるようにしてほしいという意味で、医療の専門職並びに介護職との連携を強化していただきたいという思いで書かせていただきました。

また、より多くの高齢者通いの場というのを、これはポピュレーションアプローチになるかと思うんですけども、そうした高齢者の通いの場で健康教育等が実施できるように期待いたしますということで、全部まとめさせていただきました。

【部会長】

ありがとうございます。

私もほぼ皆様と、評価については同じようなことを書いてありますので、あえて言うべきところはなく、今後の取組の方向性のところについては、本格事業前のモデル事業の実施結果を検証してもらいたいところを皆さんと同じく書いて、それから、また「地域包括ケアシステムを構成する他の要素との有機的な連携」云々と書いてありますが、これは具体的には、委員がおっしゃったような、高齢者の通いの場とかいうところをまず1つポイントとして、そこで横のつながりをつくっていくということも、この事業についても念頭に置いてもらいたいというようなことを記しているという内容になっております。

そうしましたら、以上を踏まえまして、この計画事業2の②についてですが、評価につい

ては、こちらは皆様「計画どおり」ということですので、まずこの点は「計画どおり」としたいというふうに思いますが、よろしいでしょうか。

【委員】

はい。

【部会長】

その上で、評価のところの記載になりますけれども、しっかりモデル事業を実施されたところをまず言い、皆様もおっしゃっているように、ただ、これはモデル事業なので、今後はそれに基づいて、この事業を本格的に展開していくということですので、そのときにはモデル事業の課題とか、それを検証するというをしっかりとした上で、今後、取組を進めていただきたいということでもとめたいと考えております。

あとは、利用者の意見の反映をしっかりといただきたいということですよ。そういったところもポイントとしてはあろうかと思うので、これも今後の取組の方向性のところに盛り込みたいと思います。

そうしましたら、続きまして、事業3の①、生活習慣病予防のところになります。

こちらは、レセプトデータを用いてやって、中断している方に受診を促すという事業でありました。ご所見お願いいたします。

【委員】

この事業については、皆様の評価を全く見ないところで、高く評価したい事業であったなというふうに思いました。要するに、これらをきちっと治療を受けないといけない生活習慣病を途中で中断した方たちに働きかけるということで、結構難しい作業というか、事業ではないかなというふうにも思ったわけですが、それを様々な手法を用いて、行動経済学の要素を取り入れた通知指導、これ何かチラシが資料の中に入っていましたので見させていただきましたけれども、とてもよくできているなというふうに素人としては感じました。とてもいい取組であったというふうに思います。

それから、電話の対応についても、誰が担当しても同じように対応するしくみもきちんとしてきているということで、これはもう計画以上に評価してもいいかなぐらいの「計画どおり」というふうに評価させていただきました。

とはいえ、フリーダイヤルを利用した入電による電話指導がゼロ件だったということが、とても残念だなというふうに思いましたけれども、でも、待つしかないことなのかなというふうにも思っていたら、今後の取組の方向性に対する意見で、委員がレセプトデータへの電話入力を記載させてもいいんじゃないかというふうな、それを使ってもいいんじゃないかなというふうなことが書かれていたので、この電話入力を書いてあれば、こちらから架電できるわけですよ。待つのではなくて、もっと積極的にアプローチできるということで多分書かれたのかなと思って、なるほどなというふうに思いながら、感想も含めて以上です。

【部会長】

ありがとうございます。

今の点、ちょっとレセプトというのもありましたので、ここの点について考えたところを伺えればと思いますが、何かございますか。

【委員】

区がこの事業によって行ってくれたことによって、行動変容が起こったということが確実に分かるので、それはとても評価ができるなというふうに感じました。

私は、やはりフリーダイヤルがあるにもかかわらず全然かかってこなかったとか、あとは何か電話不保持者何人みたいなことを思っていたら、ヒアリングの際に、それは電話の番号がなかったからかけられなかったというお話を伺ったので、それではもともと電話番号が書いていけば、この問題は減るのではないかなと考え、このように記載をいたしました。今後、ますます発展していったほしいなと思った事業です。

【部会長】

ありがとうございます。

いかがでしょうか。

【委員】

「計画どおり」としての評価しています。

当初の目標値から大きく実績を上回っておりますが、まず、すぐに指標を変更することなく、一定の実績を積むという姿勢、データを取るということは、すごく評価できるんじゃないかなと思っています。

また、入電・架電することで、行動を喚起することは、ほかの事業にも応用できるのではないかなということを感じております。また、きちんと行動を後押しするためにどうすればいいかということ、SNS、インターネットの時代ではありますけれども、架電をするというアナログのコミュニケーション、人が電話をして、大丈夫ですかという声かけをするということをされているのがすごく評価できると思いました。区の事業だからこそできるのではないかなということも踏まえて、評価しております。

ですので、今後の取組・方向性に対する意見も同様なんですけれども、先ほど委員もおっしゃっていましたが、架電の際のコミュニケーション、そのときに誰が架電をしても、寄り添った形で何でしょう、病気の方、気持ち的に弱っていたりとか寂しいと思うので、そのときに応じた架電などができるとよりいいのかなと思ひまして、行動喚起を行っていたらという意見を記しております。

【部会長】

ありがとうございます。

では、続いてお願いいたします。

【委員】

評価に関しましては皆さんとご一緒に、目標値を大きく上回る結果を残したということは評価できますし、それから行動経済学の要素を取り入れた通知というのが治療再開に結

びついているという成果を出している点、こちらに関しても評価できると思っております。

それから、今後の取組に関しては、まず新型コロナウイルスが5類になったということ踏まえて、また現状変わっておりますので、またより違った角度とかの受診推奨のアプローチを望むという点と、それから、ヒアリングのときに、指標に関しては、コロナ禍で受診状況が分からず、目標値を据置きにしていたというふうにおっしゃっていたかと思うので、令和5年度の実績を踏まえて、目標値の見直しを望んだほうがよろしいのかと思っております。

フリーダイヤルに関しては、皆さんと一緒に意見です。

【部会長】

ありがとうございます。

そうしましたら、私のほうは、フリーダイヤルのところなんですが、株式会社データホライゾンというところですかね、多分電話事業は委託しているようなのでありまして、知らない電話番号からの電話を取り逃したときに、そこに自分からかけるだろうかとやっぱりちょっと考えてしまう。ですので、もう少し工夫というか、区が行っている事業なんですよということはもっとアピールするみたいなことをやるといいのかなと思いました。

なので、ここでは、フリーダイヤルを利用した入電による電話指導ゼロ件だったことを踏まえて、この実施率向上に努めていただくというところで、この周知の仕方も含めて検討してほしいという形にはいかがかなというふうに思うんですけれども、よろしいでしょうか。

【委員】

はい。

【部会長】

では、ここはその他の意見とすると。

評価のところは「計画どおり」ということでよろしいでしょうか。

【委員】

はい。

【部会長】

もう数値的にも十分目標値を上回っているので、評価できるとし、今後の取組の方向性に、特に電話指導では、対象者ごとの状況に沿った指導をなされるようにしていただきたいというようなことを盛り込むということにはいかがかというふうに思います。

それから、十分に数値的にはよくできているので、ただ現状をしっかりと把握して、よりよい対策も考えてもらいたいと思いますので、今後の取組の方向性については、委員がお書きになっているものを主体にするような文章にはいかがかというふうに考えますが、よろしいでしょうか。

では、そのようにさせていただきます。その他の意見のところ、委員がお書きになっているこの文章に、少し周知方法のところについても、もう少し留意してはどうかというよう

なことを示唆するような内容にして、部会案としたいというふうに思います。

では、この事業については以上でよろしいでしょうか。

【委員】

はい。

【部会長】

ありがとうございます。

そうしましたら、続きまして、経常事業になります。

経常事業は全部で 34 ございましたし、今回のシートで記入していただいたのは 14 の事業でありましたので、それぞれお書きになったところについてご紹介いただければというふうに思います。

経常事業 2 番から、お願いいたします。

【委員】

この事業はきちんと実施されていて、感想もおおむね好評というふうに伺っていたので、とてもよかったなと思っています。また、コストカットができていたということはすごくいいことなのではないかと考えました。

ただ、今後、もしできるのであれば、イベントとかだけではなくて、せっかく新宿区、飲食店があって、飲食店との連携と書いている割には、何か調べたら、ちっとも連携されていないようなので、そこが増えて、推進したらいいのではないかとというふうに考えました。

新宿野菜の日が毎月 8 日ということが、どれだけ認知されているのかはちょっと怪しげなところもありますので、この浸透も頑張ってもらいたいと考えています。

以上です。

【部会長】

ありがとうございます。

お願いいたします。

【委員】

私も、普及啓発活動に取り組んでいらっしゃるという点が評価できるという件と、あと、ベジタックイベントというのは好評を得ているということでしたので、こちらのさらなる普及を目指してほしいなという思いを込めて書きました。

【部会長】

ありがとうございます。

こちら、皆様ご同意いただけるようでしたら、もうほぼこのままの形で、部会のこの事業について、評価というより感想・意見ですかね、という形にしてはいかがかと思いますが、よろしいでしょうか。

【委員】

はい。

【部会長】

続きまして、経常事業6番、糖尿病予防対策推進のところにつきまして、お願いいたします。

【委員】

こちらの事業に関しましては、糖尿病を予防するという大変大事な取組という点を書いているということと、あと、参加者アンケートでは、健康を考えるよい機会になったというお話もございましたので、この好評だったという点は評価できるという点を書かせていただきました。

【部会長】

ありがとうございます。

いかがでしょうか。

【委員】

委員と同じで、ヒアリングのお話からも、講演会とかイベントのアンケート結果もおおむね好評と伺えたので、とても健康を考えるきっかけになっていると思われました。

健康診査の冊子の中に情報を全部まとめたということはすごくいいなと思った反面、ボリュームが多過ぎると情報が行き渡るのかというところが少し不安に思いましたので、加えて記入いたしました。

【部会長】

ありがとうございました。

お二方のおっしゃっている点、共通しておりますので、アンケート結果からよい評価が上がっていて、しっかり事業としてちゃんとなされているという点、それから情報提供の仕方のところについては、現状もうしっかりできている部分があると同時に、もう少し検討の余地もあるのではないかとということだと思しますので、その今の点をまとめる形でお二方出していただいたところをくくる形で、これについても部会の意見としてはいかがかと思いますが、よろしいでしょうか。

では、そのようにいたします。

経常事業8番、女性の健康支援につきまして、お三方書いていただいております。

そうしましたら、ご紹介いただけないでしょうか。

【委員】

これは以前、計画事業として位置づけられていた結構大きな事業だったというふうに記憶しているんですけども、今、新宿区において、本当に女性特有のがんである乳がんと子宮がんによる死亡率が物すごく、全国平均と比べてとても高いというところで、それが改善されているのかどうかということがとても気になっていたんですね。ヒアリングでもその辺のことを質問させていただいたんですけども、依然として高いということが分かりまして、検診の受診率向上のために、さらに努めていただきたいというふうな思いを込めて書かせていただきました。

また、子宮頸がんのワクチンの接種ということが、何か副反応がすごく強いということで、

いっときそれを見送ろうということで、ワクチンの接種はしばらく中止になっていたんですね。それが最近、また子宮頸がんのワクチンの接種の勧奨が進められているということで、これもやはり、確かに副反応はあるかもしれないけれども、ワクチンの効果というのもまた看過できないことですので、受診率の向上と併せてワクチン接種の勧奨も進めるべきではないかなということ等を書かせていただいております。

また、女性の健康支援センターの認知度、知っている人は知っているけれども、依然として行ったことない、知らないという、この会で話題になったことがとてもショックで、それが現状なのだろうなというふうに思いましたので、もっと働きかけてもいいんじゃないかということで書いております。

【部会長】

ありがとうございます。

そうしましたら、よろしいでしょうか。

【委員】

私も、このセンターが女性の健康づくりの拠点として、多くの区民が健康づくりに取り組めるような普及啓発を進めてほしいという点を上げさせていただきました。

そこと、あとは、乳がん、子宮頸がんの検診率、こちらをやっぱり上げるように、若年層へのアプローチ、こちらを積極的に行ってほしいという提案を盛り込ませていただきました。

あと、新宿区として、多様な性の在り方というの、私の中ではちょっと重要ななと思っておりますので、もし載せられるのであれば、性的マイノリティーに対しての個別の相談、こちらを受けやすい環境づくりにしてほしいなという点を上げさせていただきました。

【部会長】

ありがとうございます。

続きまして、お願いいたします。

【委員】

皆様とは違う視点で、より多くの区民、それから区民の力を生かした体制づくりって書いているんですけども、何かいま一つ行き渡ってないなという感覚がありました。

さらに、ヒアリングの際にもちょっとお聞きしたんですけども、やっぱり若年層へのアプローチはなかなかできてないような、そんな印象をととても受けたので、いろいろと方法を考えたりしてほしいという願いを込めて書きました。

【部会長】

ありがとうございます。

もう一方の区民の力を生かした体制づくりのほうとしては、どんなイメージでしょうか。もしよろしければ伺いたいのですが。

【委員】

四谷のセンターを拠点にして、サポーターをつくって、その人たちが輪を広げていってほしいと思っているのですが、実際にサポーターがそんなに生まれている感じでもないし、そのサポーターが活躍している気配も全く見受けられなかったのもので、その点で記載をいたしました。

【部会長】

ありがとうございます。よく分かりました。

そうしましたら、基本的に今ご指摘いただいた点を盛り込む形にしてはいかがかと思うのですが、まず、より多くの区民のところについては、もう少しこのほかの委員の指摘と絡めると、やはりより若い層ということも含めて、乳がん、子宮頸がんの検診率ないしワクチン接種率の向上ということを図るということになるかと思うので、そういう形でここについては盛り込むと。

ただ、やっぱり、コロナワクチンもそうですけれども、やっぱり人によっては接種をためらう方もおられるでしょうから、そこについては留意する必要もあろうかと思うので、適切な情報提供と併せてこれを推進、向上に向けて取り組むというような形の記載にすることにしてはいかがかと思っておりますが、よろしいでしょうか。

【委員】

はい。

【部会長】

その点はそのような取扱いにさせていただきます。

それから、性的マイノリティの個別相談も、受けやすいような環境づくりをしてもらいたいという点も、この部会としてまとめ、総意ということであれば入れたいというふうに考えます。

普及啓発のところについても進めてもらいたいというまとまりの意見ですので、大きくは3つですね。性的マイノリティのところについては、部会の意見として、このような形で入れるということにいたしましょうか。もしご意見ありましたら伺いますが、いかがでしょうか。

【委員】

ヒアリングのときに、委員が性的マイノリティについて、性の多様性も含めてということをご発言なさったときには、とても唐突感を覚えたんですね。それで、どういうふうに扱うんだろうなど。

とはいえ、今回、この評価シートを拝見して、性的マイノリティについて個別の相談を受け付けやすい環境づくりをしてほしいと、具体的な記載があったので、これだったら、ぜひね、受け入れるべきじゃないかなというふうに思いましたので、私はぜひ記載していただきたいというふうに感じております。

【部会長】

基本的には今ここへ書いてあるとおりの形で部会の意見としたいと思いますが、もしこう、引いた視点から見たときに、若干こうニュアンスのところ、先ほどの適切な情報提供を添えてみたいな感じの何か入れるかもしれませんが、そこは後日ご覧いただくときに、ご確認いただければというふうに思います。その点も含めて、ご同意いただけますでしょうか。

【委員】

お願いいたします。

【部会長】

では、よろしければ、経常事業8については以上とさせていただきます、続いて、経常事業10番、乳幼児から始める歯と口の健康づくりに関しまして、ご紹介ください。

【委員】

ヒアリングのときにもこれを取り上げさせていただいて、お答えをいただいたんですけども、そのときのご発言では、私の思いに沿ったお答えではなかったというのが率直な思いだったんですね。健康部だけではなく、子ども家庭部や教育委員会だけではなく、福祉部の目線を、きちんと子どもの歯の健康づくりに取り入れてほしいというような思いを込めさせていただきました。

生活上の課題を抱える世帯においては、子どもの歯がよくないという現実があるわけですので、ぜひ取り入れていただきたいなというふうに思いました。

【部会長】

ありがとうございます。

重要な点ですので、私は個人的にこれ賛同するのでありますが、ほかの委員の皆様、いかがでしょうか。

そうしましたら、ご同意いただけたということで、経常事業10番は、今ご案内いただいた委員の記載を生かす形で、部会としての意見としたいというふうに考えます。

続きまして、12、13が、管理運営を任せているものの区としてですね、保養所、健康村の運営に関してのところでありました。

それぞれについてご指摘がありますので、ご紹介ください。

【委員】

12、13は一緒なんですけれども、ヒアリングのときに、周辺の民間施設の稼働率が50%ぐらいだった中で、この2つのところに関しましては稼働率がかなり高いということから、適切に運営されているというふうにおっしゃっていたかと思います。

そして、課題としては、コロナ禍前よりも宿泊人数が減少しているということでしたので、意見としては、今後増加できる期待できる取組をしてほしいということで入れさせていただきました。

【部会長】

ありがとうございます。

それぞれヒアリングで確認できたところで、件数は戻ってきたけれども、人数が減っているという話でしたよね。そういった課題的なものが出てきているようなので、うまくはいつているけれども、そういう課題に適切に対応してもらいたいという趣旨ということでよろしいでしょうか。

【委員】

はい。

【部会長】

じゃ、前半の部分、委員が書いていただいたところを生かす形で、後半は同じ内容になるかと思うので、そこは同じ内容で記したいというふうに思います。

続きまして、経常事業 14 番、高齢者健康増進事業につきまして、3 人の委員の皆様、意見をこちらくださっているので、ご紹介ください。

【委員】

ヒアリングの際に、60 歳以上の方を高齢者と呼称することについて、見直しを検討していただけたということで感謝を記載しています。

また、コロナ前は、バスを使ったハイキングを行っていて、それがとても好評だったので戻りたいですみたいな感じの話をしていたので、ぜひ戻してほしいと思い記入いたしました。

【部会長】

ありがとうございます。

そうしましたら、お願いいたします。

【委員】

私もご一緒に、ハイキングに参加した高齢者の方々から好評を得ている事業ということだったので、今後は参加者たちの意見を踏まえて、バスの利用を望んでいた声もございましたので、その辺を検討していただければと思います。

【部会長】

いかがでしょうか。

【委員】

難易度にも配慮して、いろんな方が参加できるような仕組みにしていきたいという思いを込めて書きました。

【部会長】

ありがとうございます。

そうしましたら、3 委員の文はそのまま基本的に生かし、ご指摘のバスを使ったハイキングというのを再び行うということについて、積極的に検討してもらいたいというのも部会としての意見としてはいかがかと思いますが、よろしいでしょうか。

【委員】

はい。

【部会長】

では、こちらについてはそのようにいたします。

続いて、経常事業 17 番、湯ゆう健康教室につきまして、お願いいたします。

【委員】

こちらもヒアリングのときに、コロナの感染防止のために人数制限、それから事前申込みをしていただくということだったんですけれども、今はまた状況も変わりましたので、今後としては、新規の方を多く含めて参加できるような取組を期待しているという件でございます。

【部会長】

ありがとうございます。

委員の皆様、特にご異論ないようでしたら、こちらも委員がお書きになったものをほぼそのまま生かす形で、部会としての意見としていかがかと思いますが、よろしいでしょうか。

【委員】

はい。

【部会長】

そのようにいたします。

続きまして、18 番、地域保健医療支援体制の推進につきまして、これ私も書いているところですね。ここは、多職種連携を図るものの一つとして、医療専門職の方と介護専門職の方の連携というのも図っていくことは重要であると。その連携を図るに当たって、それぞれの専門職の方がもう片方の専門職の内容等についての知見を深める必要があるということなので、実習研修の場を設けていると。この場合、介護職の人が看護小規模多機能居宅介護実習研修に加わる機会が設けられているけれども、コロナ禍の影響で参加者がいなかったということでありましたので、しかし、連携を推進していくという意味では、この研修制度大変有意義なものだと思いますので、しっかり活用していただいたほうがよいのではないかとということで、本研修制度の利用促進を積極的に図ってほしいというのが私の意見であります。

続きまして、いかがでしょうか。

【委員】

私も、ヒアリングの際に、要介護認定者数が増えていて、いろいろ内容をお聞きした時点で、本事業というのは本当に重要な役割を担っているなと感じました。その上で、やはりそういうふういきちんと進めていくには、多職種連携の強化というのが一番大事なのかなと思ひ、書かせていただきました。

【部会長】

ありがとうございます。

I C Tを有効に取り入れていただきたいということだと思いますので、それと私のもの

と組み合わせる、多職種連携のところは基本的に重なっておりますので、より一般化して多職種連携の強化で、具体的にはこういう、私が先ほど説明したような点もあるのではという形で盛り込み、その際にはICTの活用も図ってまいりたいという書き方でいかがかと思いますが、よろしいでしょうか。

では、そのようにさせていただきます。

続きまして、23番、食育推進につきまして、お願いいたします。

【委員】

こちらのヒアリングの際にもいろいろ意見を述べさせていただきましたけれども、書いておけるとおり、区立の小学校教諭の中には給食を完食させることが食育と勘違いされている方が多々いらっしゃるのでは、全教諭に食育の在り方を教育して、学校全体で健全な食生活の実施をお願いしたいという思いを込めて書きました。

【部会長】

ありがとうございます。

いかがでしょうか。

【委員】

自宅で子どもたちに聞いてみたんですけれども、小学校のときそういった経験があったかって聞いたら、「あったよ」って言うんですね。それをやっぱり踏まえた上で、こういったことの指導の徹底をしていただきたいという意見を書かせていただきました。

【部会長】

ありがとうございます。

いかがでしょうか。

【委員】

私は、高齢者のほうに的を絞らせていただきましたけれども、幼少期から食事に対する指導というのはとても大事だというふうに思いますけれども、さらに年取ったら大事になりまして、フレイル予防の観点から、高齢者にも食に関する正しい知識と理解が深められるように、その働きかけていただきたいということを、食育になるのかなと思ってここで書かせていただきました。

【部会長】

ありがとうございます。

そうしましたら、大きくポイントは、学校での食育の在り方、それから委員が指摘の高齢者、高齢世代も対象としていくという方向性、この2点があったかと思いますので、まずはこの2点は部会としての意見として盛り込む方向で考えるのが適切であろうかというふうに思います。部会としての案はそういう形とさせていただければと思いますが、よろしいでしょうか。

【委員】

はい。

【部会長】

では、そのようにいたします。

続きまして、27番、喫煙に関すること、それから28番は受動喫煙で、これセットということで、委員、両方について記していただいているので、ご紹介ください。

【委員】

結局、同じことになるんですけども、健康影響に関する普及活動を行っていたり、推進を行っているのは評価できるんですが、ただ、新宿区としては路上喫煙の罰則がないというのが現状で、まだ区内の路上喫煙者というのは減少していないというので、その点、受動喫煙とかを禁止をうたっているのであれば路上喫煙者への防止対策、こちらに力を入れるべきなのかなと思って、述べさせていただきました。

【部会長】

ありがとうございます。

こちらは、基本的に私も賛同であります。路上喫煙対策にももっと力を入れてもらいたいという点は、27のほうよりも28のほうで、事業の趣旨から見ると適切なのではないかと思いますので、28にまとめるのはいかがでしょうか。

【委員】

はい。

【部会長】

では、こちらについては、そのような形を取らせていただきます。ありがとうございます。続いて、29番、自殺総合対策につきまして、ご紹介ください。

【委員】

こちらは、ヒアリングの際に、気づいてつなぐということを強調していらっしやったので、その対応はとても大事だと思っているんですけども、なかなか難しい問題ではあるので、感度を研ぎ澄ましてほしいなという期待を込めて記入いたしました。

【部会長】

ありがとうございます。

そうしましたら、お願いいたします。

【委員】

私もヒアリングのときに、新宿区の自殺者は特に若者、女性が多いという現状を教えてくださいまして、それを踏まえて、区では対応しているということだったので、その点は評価できるかなと思っております。

ただ、ゲートキーパー養成講座、こちらに関しましては、やはりとても難しい問題かと思っておりますので、本当に必要な支援につなげられるような人材、こちらの育成を期待しているという点でございます。

【部会長】

いかがでしょうか。

【委員】

私はですね、相談を受けた職員がさらに相談できる場所があるということを知って、安心しました。その事業自体がデリケートであるので、精神的な負担は大きいと思いますので、そういった職員の方のケアが重要だと思っています。

そこから派生しまして、意見ですけれども、もちろん新宿区のほうではそういった休職やメンタル的なもののケアはあるかと思うんですけれども、休職する前の段階での何でしょう、精神的なものだったりとか、仕事に向き合い際の行き詰まりなどを、パワハラ的なものがない、気軽に相談できる場所を活用できればいいなという思いで意見させていただいております。

【部会長】

ありがとうございます。

そうしましたら、まずは、「気づき」、「つなぐ」というところを、委員が記していただいた文におおむね即す形で、部会としての意見として盛り込むと。

それから、評価できる点として、相談を受けた職員がさらに相談できるという体制が取られているという点は評価できるということですね。それはポイントとして追加するという形で整えたいというふうに思いますが、よろしいでしょうか。

【委員】

はい。

【部会長】

では、そうさせていただきます。

続いて、32番、骨粗しょう症予防検診につきまして、お願いいたします。

【委員】

新宿区では、測定方法が足だけなんですよね。今もそれ、ちょっと古いというか、そこだけではなくて、一応いろんな箇所測定しないと分からないというのが普通の感覚になっているので、全部ではないにしても、一部にでも入れてほしいなと感じ、記入いたしました。

【部会長】

ここ、私読ませていただいて、確かに全部は調べられませんでしたけれども、これ何で気づかれたのですか。

【委員】

ほかの区に住んでいる方とかいろんな方とお話をしているときに、骨粗鬆症のお話が出て、その際に検査方法をいろいろ聞いたら、ほかの区に住んでいる人たちは全然違う方法なのに、新宿区だけはまだ何十年も前の方法をやっているんだと思って、ほかにあるのかなと一生懸命調べたんですけれども、どこを調べてもあの方法しか出てこなかったもので、それを記載いたしました。

【部会長】

なるほど。これ、おっしゃるとおりなんですよ。ただ、最もシンプルというか、何か原始

的とも言えるようなやり方みたいですね。あとは、何かレントゲンとか使う、ほかのものを何かやっているところがほとんどでしたね。

事務局、超音波法で今実施していることについて、担当課はどう考えられているのかというところを、ちょっと部会向けにご回答いただけるように取り次いでいただけないでしょうか。

【事務局】

承知しました。

【部会長】

区としてはこれが適切という見解が示されるのではないかと思うので、その方法の有効性を検証してもらいたいというような記載はいかがですか。

【委員】

お願いします。

【部会長】

すみません。お手数おかけしますが、よろしく願いいたします。

では、以上、経常事業になります。

これまでの議論を踏まえて、個別施策1-1なので、健康寿命延伸に向けた取組充実というものです。これについてどう評価するかということになってまいります。

【部会長】

そうしましたら、いかがでしょうか。

【委員】

「おおむね順調に進んでいる」と評価しました。今後の取組に関しても、コーディネーターの点ですとか、あと、強いて言うなら、区の取組や地域、通いの場などにつながっていない75歳未満の方たちに、こちらに関しても積極的にアプローチしていただきたいということ望んでいること、それと、その他の意見として書かせていただいたんですけども、やはりウォーキングの推進というのは、区内の魅力あるスポットを巡るということでもありますので、こうした事業を推進するということは新宿区の文化、観光事業にもつながっていくことと感じておりますので、そういったことを期待するということを記載させていただきました。

【部会長】

ありがとうございます。

【委員】

私は総括みたいな形で簡潔に書かせていただいております。乳幼児から始める歯の健康づくりから若年層や女性の心の健康づくり、また、高齢期の健康づくりまでと、まさに生涯にわたっての心身ともに健康で暮らせる取組の実施をしているように見受けられたので、「おおむね順調に進んでいる」という評価です。

人の生涯を各年代やステージに分けて取り組むこと、細分化することによってこういっ

た取りこぼしのないように、区民に届くような施策を継続していただきたいと考えております。

また、今後の取組に対する方向性ですけれども、やはり健康であることが当たり前を感じていますけれども、決してそうではないということを改めて今回の事業を通して感じました。区民が日常から病気を予防する意識を高め、健康維持できるようにする趣旨の取組なんです。区民がもっと身近に感じられるような、ぬくもりある発信を今後も継続していただきたいと願っております。

【部会長】

ありがとうございます。

お願いいたします。

【委員】

私は、個別の評価については、経常事業を含めて個別評価をさせていただいておりますので、内部評価の中の総合評価の中の計画事業に的を絞って、主に評価の再掲を書かせていただいています。

その他の意見と感想のところはその他の意見のところにまとめて残していただきたいというふうに思っているところです。

また、今後の方向性についても、しつこくウオーキングのことを書いていますけれども、これは特に個別施策のところに書かなきゃいけないというほどのことでもなかったかなというふうに、改めて思っているところです。

【部会長】

ありがとうございます。

委員の皆様にはそれぞれポイントを上げていただいておりますので、こちらでできるだけ網羅的になる形で膨らませていく形で、こちらの総合評価（案）は、文章としては下案をつくりたいというふうに考えます。

その上で、大切な、最終的には評価ですが、皆様、総じて「おおむね順調に進んでいる」ということでありましたので、こちらは部会としてもこの評価ということになるかなと思いますが、それでよろしいでしょうか。

【委員】

はい。

【部会長】

では、そのようにさせていただきます。

あとのところは、先ほど委員がおっしゃっていたところは、強調点だとは思っているので、1つは、総合評価のところの視点として、生涯にわたって連続的に、しっかりカバーしていくというような視点というのが大切で、それがこの事業にも見られているところは1つポイントになろうかなと思いますので、総合評価欄の記載にはその旨も盛り込むことにしてはいいかがかというふうに思っています。

それから、ここでも視察の感想を入れていただいた委員もいらっしゃいますけれども、全体の評価をまとめる場所なので、またここでこういう形で書くというのもよいことだと思ったところなんですけれども、皆様、いかがでしょうか。この総合評価全体の中にも、視察へ行ってこういう感想を持ったということで、部会としてのそれを意見とするということでもよろしいでしょうか。

【委員】

はい。

【部会長】

では、そのようにさせていただきます。

今度は、最後のページの今後の取組の方向性のところですね。ここについては、今後の方向性で、これ、区の方がおっしゃっていたメンタルヘルスの分野も、地域包括ケアシステムの中に入れ込む形で発展させていくということを検討していきますということをおっしゃっていたので、ここは後押しするべきポイントだと思うんですよ、高齢者以外にも広がっていくという話なので。

なので、これは今後の取組で、まさに区が言っていることを後押しする的な発言なんですけれども、これはぜひ入れさせていただきたいというふうに思っているんですが、よろしいでしょうか。

【委員】

はい。

【部会長】

では、その点ご確認いただきました。

それから、コーディネーター等の課題もあるので、ここはアクセントを置く形で、改めて個別施策のところにも今後の取組の方向性として、フレイル予防等は重要であり、ただ、その重要な役割を担っているコーディネーターの方の裾野を広げていくというような課題があるので、ここを取り組んでもらいたいという点、それから、今は通いの場等につながっていない方にも積極的にアプローチする方法というのを探してもらいたいという点はやっぱり重要な点、今日のこの場での話合い、意見交換も含めてであったかと思うので、ここの今後の取組の方向性のところに入れるのがよいのではないかというふうに思いますが、こちらについてもそういった形、ここへ入れ込む形でもよろしいでしょうか。

【委員】

はい。

【部会長】

そのようにさせていただきます。

委員がおっしゃっているぬくもりもある発信というのは、大切なことだと思います。さっきの電話のところでも、機械的な対応にならないようにということでおっしゃっていたところにも関わることだと思います。ここは大切な点だと思いますので、今後の取組の方向性と

いうよりは意見という形で、下の欄のほうに入れるという形のほうがよいのかなとも思うのですが、よろしいでしょうか。

【委員】

はい。ありがとうございます。

【部会長】

では、そのようにさせていただきます。

また、ウォーキングと他事業の連携については、今後の取組の方向性に入れるという方向性もあるかと思います。あるいはその他意見として記すということもあり得るかと思うのですが、これはどちらに記載しましょうかね。

【委員】

では、今後の取組の方向性をお願いします。

【部会長】

では、その方向で盛り込みたいというふうに思います。

それから、働き世代にも積極的に働きかけるというのも個別事業のところに出ていた共通の意見だったと思いますので、これも盛り込むという形で記載を整理したいと思います。

あとは、その他意見で私が言っているのは、健康寿命の延伸なので、筋力を保つとかというところにフォーカスが置かれて、結局、体操系の事業になってしまいがちだけれども、高齢者の関心としては、むしろそっちじゃなくて、人と交流したり、趣味的なもので集まりたいということもあるとすると、例えば、学習会とか市民講座とか、サークル的なものとの接点をもうちょっと積極的につくっていくと、単に事業活動に参加するというのではなくて、それを通して何か人間関係が形成されて、生きがいを見いだしていくというところにつながっていくというふうに思われますので、運動はとても重要だけれども、それに関係しないで、それ以外との文化的活動というんですかね。そうすると、委員がおっしゃっているのと重なってくるんですけれども、そういうところにもぜひ留意して進めたいというのは、今度その他意見・感想で私が記したところでもありますので、これも適宜盛り込む形で記載してもよろしいでしょうか。

【委員】

これは先生のご意見、単独でこれ載せていただいたほうが良いと思います。どうしても、やっぱり健康寿命というと、体を動かそうという方向にいくんだけれども、やっぱり知的な好奇心だって大事にしていけないといけないし、本当にソロ活動が好きという方は、割とそういう傾向の方が多いというふうに思うんですね。それはそれで、とても大事な高齢期の生きがいづくりになりますので、これはこのまま、その他の意見のところにもぜひ単独で生かしていただきたいなというふうに感じております。

【部会長】

ありがとうございます。

もしご同意いただけるようでしたら、その他意見のところに、もう少し文章を練るかもしれませんが、こういった内容を記させていただくという形でもよろしいでしょうか。

【委員】

はい。

【部会長】

ありがとうございます。

そうしましたら、その他意見のところも含めて、今まとまることができたかというふうに思います。

10分を切った形で、ただ、分量はそれなりに多い中で、全ての事業について、委員の皆様お考えになったことをできるだけ発言していただく形で部会案、方向性としてはまとめることができたかというふうに思います。

この後の手順としては、まずは今日のこの了承いただいた方向性を踏まえて、下案を文章化して、それをご覧いただいて、それをもって全体会の部会案としてお示しするという形にしたいと思います。もうしばらくこれ、お付き合いいただくこととなりますけれども、よろしく願いいたします。

では、事務局のほうで何か、私のほうで漏らしている点ともしあれば、あるいは今後のことについてアナウンスください、お願いいたします。

【事務局】

では、今後のことのアナウンスをさせていただきます。

第2部会の評価の案については、先ほど先生からご案内があったとおり、先生から事務局にたたき台をいただいたら、それを私から皆さんにお送りさせていただきます。

今後のスケジュールですが、昨年同様、10月に全体会を実施して、各部会の評価結果を委員会全体の評価として承認する場を設けます。10月23日月曜日の午前9時半から12時、そこで終わらなければ、その翌日、10月24日の火曜日午後1時から午後3時、この2つの時間帯で実施させていただきたいと思います。

それから、例年、外部評価委員会会長から区長に評価結果を報告する機会があるんですが、今年は11月14日に実施する方向で調整をしております。詳細が決まりましたら、メール等でご連絡するようにいたします。よろしく願いいたします。

【部会長】

ありがとうございます。

そうしましたら、皆様のご協力をもって無事時間内に終えることができました。

本日はお疲れさまでした。どうもありがとうございました。

<閉会>